

参考 洪庵筆 除痘館記録 (万延元年)

除痘館記録

嘉永二年己酉秋、和蘭商船(商館)外科医モンニツキ始て半痘苗を持渡り、長崎の小児に種しを、本邦半痘種法の根始とす。是より前 越前侯(諱慶永卿)此痘の国家に益あらんことを被思召、公辺へ御願被立、唐土より其痘苗を取寄すべき旨侍医笠原良策に被命、良策を以て長崎唐通詞穎川四郎左衛門に被仰付置しに、幸ひモンニツキ持渡りたるに依て、四郎左衛門己れが孫に種て其苗を京師(京都)日野鼎哉に贈れり。是鼎哉は良策の師にして亦四郎左衛門と懇意なりしを以て、始より此事に關すればなり。鼎哉自家の孫并懇家の児に下苗し置て、急に越前に注進す。之に依て良策早速上京して京師新町に一館を設け、都下の児に試ること一二月なり。

是に於て日野葛民、緒方洪庵兩人申合せ、先づ大和屋喜兵衛を頼み、古手町に於て大和屋伝兵衛名前にて貸家借り受、之を種痘所と定め置き、同年十月晦日一小児を携へ上京して良策に分苗を乞ひしに、御用の痘苗私に分与し難き義なれとも、統苗御用意の爲め頼み置とせば両全なりとて、十一月七日改て一痘児を携へ、鼎哉同伴にて下阪し、之を分与せり。是大坂半痘種法の最初なり(良策より葛民、洪庵へ統苗を頼むの一札あり)最初より葛民、洪庵、喜兵衛三人誓を立て、是唯仁術を旨とするのみ、世上の爲めに新法を弘むることなれば、向來幾何の謝金を得ることありとも、銘々己れか利とせず、更に仁術を行う料とせん事を第一の規定とす。爾後其美事を聞て社中に加る

ものは、中耕介、山田金江、原佐一郎、村井俊蔵、内藤数馬、山本河内、各務相二、佐々木文中、緒方郁蔵なり。

然るに都下悪説流布して、半痘は益無きのみならず、却て児体に害ありといひ、之を信するもの一人も無之に至れり。茲に於て不得已頗る米錢を費し、一会毎に四五人の貧児を雇ひ、且つ四方に奔走して之を諭し、之を勧め、辛して綿々其苗を連続せること三四年、漸くにして再び信用せらるることを得たり。其間社中各自の辛苦艱難せること敢て筆頭の尽す所にあらず。或は其煩勞に堪へざるを厭い、或は其自家の本業に妨げあるを患ひて退社せるものは、内藤数馬己下五人なり。

其社中の困苦を憐て頗る助力を致せるは、天満与力萩野七左衛門、同父勘左衛門と、尾崎町住平瀬市郎兵衛の母となり。抑々此館を設て都下の一ヶ所に定め、普く諸医を茲に集めて之を行はしめんとするの趣旨は、其良術の猥りに眩醫の徒の手に陥らんことを恐るると、其佳苗の連綿して絶ゆること勿らんことを希ふとにあり。洪庵幸に御町奉行並与力に懇家多きに依て此趣意を以て内願せること數十ヶ度に及び、又大和屋喜兵衛名前にて表向き願立しことありといへとも、其新奇にして旧例無之を以て官許を得かたく、空敷十年の星霜を経し内、安政五年戊午春戸田伊豆守殿御町奉行の節、改て出席医師より願書可差出旨内沙汰有之、社中山田金江のみ市中住居の名前あるを以て同人を願主として書附差出せしに、早速御聞濟に相成、同年四月二十四日三郷街中へ口達御触書出で、種痘の害なきことを懇々被諭、且種痘所は古手町一ヶ所に限ることを許されたり。(願書及び御触書写しは別に記録す。堺の種痘所官許は安政六年夏な

り。江戸種痘所は万延元年七月に許されたり。故に種痘の官許を得しは大坂を始とす。）

然るに旧館手狭にて多人集会の節は雑沓甚しきか故に、社中申合せ今度尼崎町一丁目に一地面を買求め本館を茲に移せり。町法有之を以て高池清之介を名前人に頼み、同家手代脇屋文介を家守とす。其買得普請等皆右主従の世話に依る所にして、其勤勞不少、依て之を世話方に加ふ。

さて前條に挙たる退社五人の外追々死亡せる者は、原佐一郎（安政甲寅六月卒）、村井俊藏（同年七月卒）日野葛民（安政丙辰十月卒）、大和屋喜兵衛（安政己未七月卒）、中耕介（万延庚申二月卒）、五人なり。佐一郎は生前より甥家松本俊平を以て常に代勤せしめたるを以て、没後同人代て之を嗣ぎ、葛民は養子主税之を嗣ぎ、喜兵衛は倅喜介（喜兵衛と改む）之に代れり。俊藏、耕介兩人は嗣子無之を以て絶す。林元恭は最初より補助として勤功久しきか故に、戊午の冬社中に列す。故に今存在する所は、社中緒方洪庵、日野主税、山田金江、松本俊平、林元恭、補助高安丹山（戊午春補助に加ふ）日野鼎（己未秋補助に加ふ）青山董太郎（丙辰秋より筆者とし補助の列に加ふ）世話方大和屋喜兵衛、高池清之介なり。

各自寒暑を顧みず、雨雪を厭はずして、身を碎き、心を勞し、其究苦の時に当ては自ら米錢を費せることは有之といへとも、更に一錢の利を私にせしことなく、孜孜汲々として勉強せること今茲に十有二年、其勤切積て今日の大成を得るに至れり。冀くは、後來の諸子、越前谷の恩徳と、鼎哉の厚恵とを忘るることなく、社中各家の苦心勞思せしことを想像し、寡欲を旨とし

となく、社中各家の苦心勞思せしことを想像し、寡欲を旨とし、仁術の本意を失はず、其良意を嗣き玉へと云爾。

万延元年庚申十月尼崎町除痘館
創成之日 緒方洪庵謹録之